

「第5回ふくしま学（楽）会」が開催



↑研究成果発表の様子

1月26日（日）、榊葉町みんなの交流館ならはCANvasを会場に、早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター主催の「第5回ふくしま学（楽）会」が開催されました。「記憶遺産と教訓」「文化育成と発信」「にぎわいと生業」をテーマに、それぞれの分野で研究や事業を行っている学識経験者やNPO団体、ふたば未来学園高校生、早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長の松岡教授や遠藤町長など約80人の参加者が考えや研究成果を発表しました。

広野町まちづくりセミナーを開催



↑講師の佐々木龍郎氏から住環境と健康の関係性について学ぶ町職員、社協職員、民生委員ら

2月5日（水）、公民館大会議室において、広野町まちづくりセミナーを開催しました。同セミナーは、近年の医療費や介護サービス費の負担が増大している状況を踏まえ町民の健康寿命延伸と未病促進を図るために開催され、町職員、社会福祉協議会職員および民生委員など約60人が受講しました。同セミナーでは建築とエネルギーの専門家である株式会社佐々木設計事務所代表取締役・株式会社まちづくり社役員の佐々木龍郎氏を講師に招き、住環境と健康の関係性について学びました。

第1回ふるさと福島広野会総会・交流会を開催



↑第1回ふるさと福島広野会総会の様子

2月15日（土）、都内の東京グリーンパレスにおいて、第1回ふるさと福島広野会総会・交流会を開催しました。本会の開催にあたり会員募集をしたところ、51人の応募がありました。総会には11人の会員が出席されたほか、来賓として若松謙維参議院議員、高橋彰吉野正芳衆議院議員秘書、広野町議会議員が出席しました。本会の会長と副会長が選出され、会長に坂本潤之輔さん、副会長に鯨岡清三さんが選任されました。本会を通じて、広野町の情報や魅力の発信、会員相互の親睦を深めました。

東日本旅客鉄道株式会社水戸支社へ要望活動



↑福島県鉄道活性化対策協議会と常磐線北部整備促進期成同盟会合同での要望活動の様子

2月5日（水）、福島県鉄道活性化対策協議会と常磐線北部整備促進期成同盟会は、東日本旅客鉄道株式会社水戸支社に対し合同要望活動を行いました。要望事項としては①鉄道施設の復旧について、②鉄道施設の整備について、③輸送力の充実・強化について、④ダイヤ改正についてなどで、福島県・浜通り地方の復旧・復興が成し遂げられるよう強く要望しました。福島県鉄道活性化対策協議会の一員である遠藤町長は、広野町の独自要望として列車の増便や運転区間の拡大など、鉄道利用者の利便性を向上させるダイヤ改正を要望しました。

菅家一郎復興副大臣視察来町



↑菅家一郎復興副大臣（右から2番目）と意見交換する遠藤町長

1月17日（金）、菅家一郎復興副大臣が広野町役場を訪れ、遠藤町長と意見交換を行いました。遠藤町長は渡辺復興大臣に対して町の現状・復興について説明し、復興・創生期間後まで続く長期の事業について継続した支援、若者の帰還支援、心の復興などを要望しました。菅家復興副大臣は、「2020年度は復興・創生期間の事業を考える重要な一年となる。東京五輪では、復興が着実に進んでいる姿を世界にアピールしたい。」と話しました。

福島県浜通り地域の復興と発展に向けた連携協力協定を締結



↑締結式に臨んだ遠藤町長（右から4番目）

1月25日（土）、東日本国際大学において、東日本国際大学、いわき市、双葉8町村の福島県浜通り地域の復興と発展に向けた連携協力協定の締結式が行われました。共同組織「福島浜通り復興創生キャンパスコンソーシアム」を結成しました。この協定は放射能汚染地域の産業化を実現した米ワシントン州にあるハンフォード地域の取り組みを調査研究することで、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想の実現と浜通り発展につなげることを目的として締結されました。今後は、7月に現地を視察し、自治体ごとのニーズを探ったり、広域的な役割について考えたりします。

広野産みかん微生物「THTM HIRONO」に命名



↑命名した広野小学校6年生7人と十亀陽一郎福島工業高等専門学校助教

町と福島高専は、昨年度から酵母などを使った新たな特産品を作ろうとみかんの実や葉についている微生物を調査する取り組み「みかんプロジェクト」を進めており、12月に収穫された実から2種類の微生物が初めて見つかりました。1月23日（木）、広野小学校の6年生7人と十亀陽一郎福島工業高等専門学校助教は、広野町産みかんから初めて見つかった微生物を国際的なデータベースに登録するため、「東北に春を告げる町」という町のキャッチコピーにちなんで、「THTM HIRONO」と命名しました。この微生物は、紫外線への耐性を持っていることがわかっていて、今後日焼け止めなどへの活用を検討していきます。

震災後初の野焼きを実施



↑西の沢ため池周辺で野焼きをする亀ヶ崎水利組合員

2月2日（日）、亀ヶ崎水利組合などが町内折木の西の沢ため池周辺の害虫駆除のため、震災後初となる野焼きを実施しました。組合員や町消防団員ら約60人が燃え広がらないよう注意を払いながら、ため池ののり面などの枯れ草約1ヘクタールを焼きました。町は、農家からの野焼き再開要望を受け雑草の放射性物質を調査し、飛散する恐れはないと判断し条件付きで容認しました。